

ロケ誘致・ロケ撮影に関する課題等について

内閣府 知的財産戦略推進事務局

1. ロケ誘致の経済効果について

ロケ誘致促進に伴う効果、10年間の経済効果シミュレーション

年間予算25億円、キャッシュバック20%、誘致本数4本と仮定したシミュレーションによれば、10年間で1.98兆円の経済波及効果、14.3万人の新規雇用が創出される想定

ロケ誘致による経済効果サマリー

ロケ誘致による経済効果（10年間）

前提条件

- 国内支出の**20%**の助成金を提供と仮定
- 実際に日本でロケが行われた「Snake Eyes: G.I. Joe Origins (2021)」「Tokyo Vice(2021)」と日本ロケの可能性があった、または日本と関連のある2作品（「Mission Impossible: Fallout(2018)」「Transformer(2014)」）の計4作品のデータを用いて単年の経済波及効果（ロケ支出起因・スクリーンツーリズム起因）、雇用効果、所得効果、増加税収を算出
- 同規模作品の誘致が年平均4作、10年間継続的に行われたと仮定して、各項目の単年の数値の10年分をロケ誘致継続10年間の経済効果と仮定

経済波及効果

1.98兆円
(ロケ起因: 2,058億円 ツーリズム起因:1.77兆円)

雇用効果

14.3万人
(ロケ起因:1.2万人 ツーリズム起因:13.1万人)

拠出助成金

249億円

助成金単位あたりのパフォーマンス

79.3円
(ロケ:8.2円 ツーリズム:71.1円)

所得効果

3,371億円

増加税収

1,458億円

1. ロケ誘致の経済効果について（参考）

内閣府「大型映像作品ロケーション誘致の効果検証調査」事業における効果報告

令和元年度～令和4年度の調査対象6作品による効果

内閣府支援金額(調査協力金)の合計	4億3400万円
日本国内における制作費(国内消費額)の合計	117億7300万円
経済波及効果(観光を除く)の合計	193億6300万円

<事例1>

中国映画「唐人街探偵TOKYO MISSION」
 総製作費／65億円 日本国内製作費／31億円
 支援額／4800万円（消費税別）

	直接効果 (百万円)	第1次間接 波及効果 (百万円)
東京都	1,547	4,640
愛知県	338	1,015
栃木県	290	870
埼玉県	290	870
兵庫県	242	725
山梨県	97	290
神奈川県	97	290
茨城県	48	145
静岡県	48	145
千葉県	48	145
群馬県	48	145
合計	3,093	9,280

社会効果：

栃木県足利市にて「渋谷スクランブルシティ」の建設費用を負担。撮影後、足利市はロケ誘致に活用している

<事例2>

ハリウッド映画
 「G.I.ジョー：漆黒のスネークアイズ」
 総製作費／102億円
 日本国内製作費／20億円
 支援額／9600万円（消費税別）

	直接効果 (百万円)	第1次間接 波及効果 (百万円)
東京都	572	1,715
兵庫県	751	2,252
大阪府	393	1,179
茨城県	250	751
合計	1,966	5,897

その他：

- ・国内制作者を常時約200名を雇用
- ・公共インフラを活用したロケ
- ・地域住民の連携による合意形成の確保

<事例3>

配信ドラマ「TOKYO VICE」(世界配信作品)
 総製作費／90億円
 日本国内製作費／45億円
 支援額／1億円（消費税別）
 撮影地／東京都、神奈川県、茨城県など

その他：

- ・国内制作者を常時250名を雇用
- ・マイケル・マン監督のもと、ハリウッドの手法を直接学ぶことができた
- ・国際スタンダードな業務(スキル)を学ぶことができた(制作経理・管理、安全管理など)

<事例4>

配信ドラマ「Sunny」(世界配信作品)
 総製作費／70億円
 日本国内製作費／40億円
 支援額／6000万円（消費税別）
 撮影地／京都府、東京都、関東近郊など

その他：

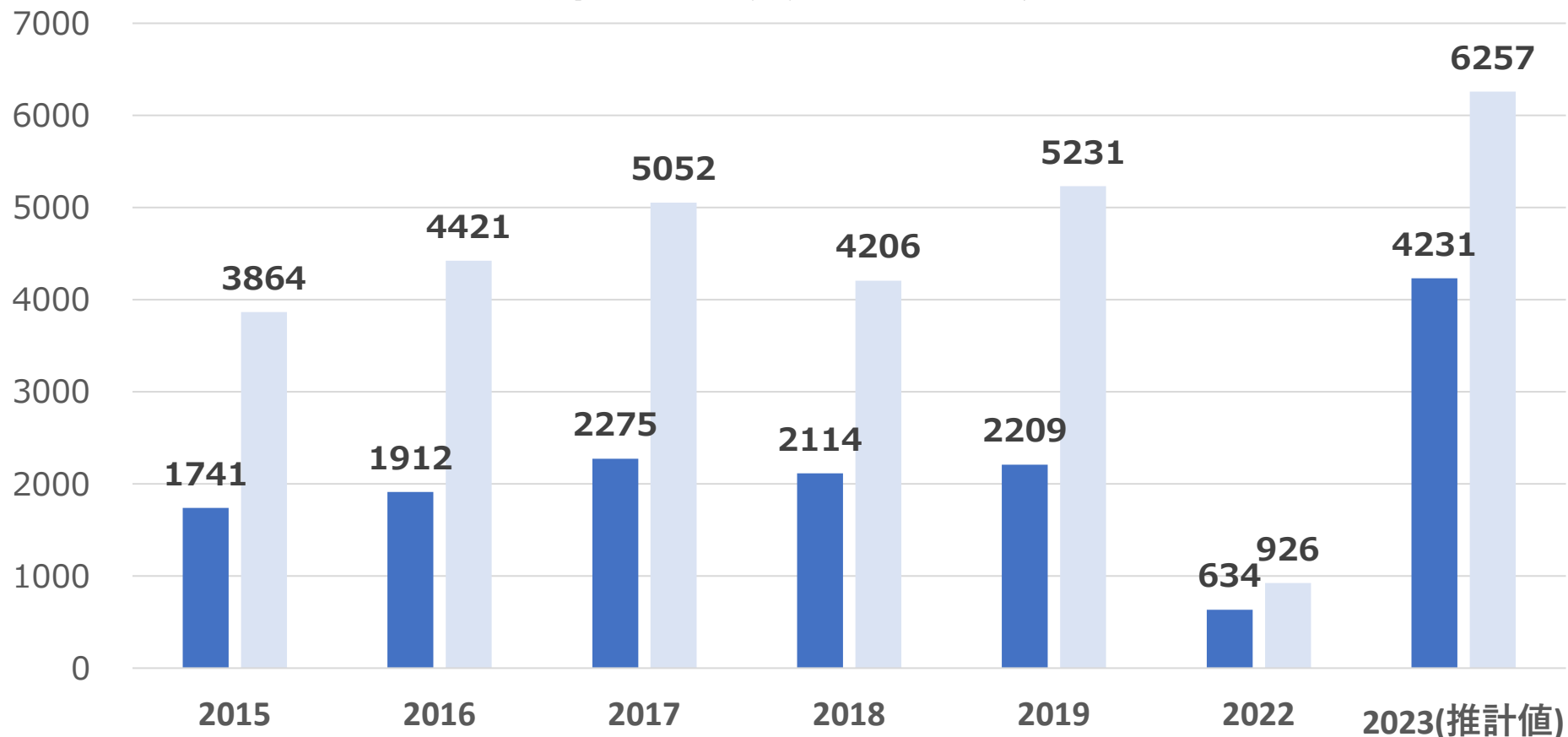
- ・コロナ防疫予算約5億円をかけた安全対策の実施

2. 外国人の映画・アニメ縁の地訪問による期待国内消費支出効果試算

- 日本各地に映画・アニメの縁の地が存在。インバウンド観光客のうち縁の地訪問者数は200万人規模（2023年推計値）。
- 潜在的な縁の地訪問者の需要は300万人規模と見込まれ、6,257億円の国内消費支出が期待されている。

外国人の映画・アニメ縁の地訪問による 期待国内消費支出効果試算

単位：億円



■ 実際の期待消費 ■ 潜在的な期待消費

出典：訪日外国人消費動向調査から試算
*2020-2021はコロナ下で調査数値は存在せず

3. ロケ誘致に関する諸外国との比較

ロケ誘致に関する諸外国との比較

日本はロケ誘致に関する取組は他国に対して競争劣位にあるため、今後の誘致を見据えては各条件についての現状の理解と解決策の検討が肝要

ロケ誘致に関する諸外国との比較

		英国	カナダ	ニュージーランド	韓国	タイ	日本
誘致活動		<ul style="list-style-type: none"> ・プロデューサーによる企画の売り込み 1.8万点のロケ地データベース 	<ul style="list-style-type: none"> イベント出展 2.5万点のロケ地データベース 	<ul style="list-style-type: none"> 企画売り込み (『ロード・オブ・ザ・リング』) 首相が誘致活動 	<ul style="list-style-type: none"> 撮影機材、支援内容の情報を英語・中国語などでHP上で提供 ロケーションや制作技術などの博覧会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 政府による5F観光誘致政策 (Food, Film, Fashion, fighting/boxing, festival) 	<ul style="list-style-type: none"> ロケ地情報の多言語化が進展していない JFCによる海外制作者向けへのロケ地のPR活動
前提条件	アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ハリウッドからは地理的には離れている 	<ul style="list-style-type: none"> ハリウッドから4時間圏内 	<ul style="list-style-type: none"> 国内アクセスは飛行機2時間圏 	<ul style="list-style-type: none"> 北米・欧州からは遠いがスカウトツアーを中央政府と地方FCで開催 	<ul style="list-style-type: none"> 北米・欧州からは遠い 魅力的な東南アジアの風景 	<ul style="list-style-type: none"> 北米・欧州からは遠い 非英語文化圏
	言語・文化	<ul style="list-style-type: none"> 英語/同質文化圏 安定的気候/近代都市 	<ul style="list-style-type: none"> 英語/同質文化圏 安定的気候/近代都市 	<ul style="list-style-type: none"> 英語圏 夏冬逆転した気候、壮大な自然 	<ul style="list-style-type: none"> 観光立国につき英語話者が比較的多い 	<ul style="list-style-type: none"> 観光立国につき英語話者が比較的多い 	<ul style="list-style-type: none"> 特徴的な建築風土 国民性/勤勉 良質な生活空間
	気候風土					<ul style="list-style-type: none"> 348作品、250億 (2022年) 	
	撮影許可	<ul style="list-style-type: none"> 撮影許諾専門部署/条件・料金明確 	<ul style="list-style-type: none"> 撮影許諾専門部署/条件・料金明確 	<ul style="list-style-type: none"> 撮影協力ガイドラインに半数の行政が批准 	<ul style="list-style-type: none"> 韓国映画振興委員会が窓口となって、円滑なロケ誘致・撮影を支援する体制を構築 	<ul style="list-style-type: none"> 外国作品は国認定のコーディネート会社との契約が必須 申請後、10日での許可 	<ul style="list-style-type: none"> 難解な撮影許可
	対応窓口						<ul style="list-style-type: none"> 対応窓口が分散
技術的条件	高度人材	<ul style="list-style-type: none"> 数多くの大規模ハリウッド作品の誘致を経てノウハウ蓄積 	<ul style="list-style-type: none"> 2.5万人の産業従事 (米国次々2位) 	<ul style="list-style-type: none"> 技術向上中 WETA (世界的VFX制作会社) 大規模スタジオ新設 	<ul style="list-style-type: none"> 大手配信サイトとの共同制作の経験が豊富 英語対応可能なルールが限定的 大規模スタジオはないが、中規模が新設 	<ul style="list-style-type: none"> ハリウッド大作の経験が豊富 人件費安価 大規模スタジオはないがバンコク近郊に中規模スタジオ新設 	<ul style="list-style-type: none"> 英語対応人材不足 少ない共同製作経験 先端技術の導入遅れ 大規模スタジオがなく中規模も空きがない
	制作設備	<ul style="list-style-type: none"> 大規模スタジオがある (パインウッド・スタジオ) 	<ul style="list-style-type: none"> ゲームCGI/VFX技術 多人種人材が集積 				
金銭的条件	物価水準	<ul style="list-style-type: none"> インセンティブ制度あり (対象支出の25.5%を減税) 	<ul style="list-style-type: none"> 物価は高めだがハリウッドよりは人件費安 	<ul style="list-style-type: none"> カナダより30%安い制作費 最大25%の助成金 	<ul style="list-style-type: none"> 物価はアジアでは高め 中央政府 (最大25%) と地方政府がそれぞれ助成金のインセンティブ制度を導入し併用可 	<ul style="list-style-type: none"> 物価は安価 最大30%の助成金 申請条件が低い 申請書類が明解 利用しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 近年物価安の現象 国際的なインセンティブ制度がスタート 使いづらい制度/単年度予算
	インセンティブ	<ul style="list-style-type: none"> 新システム(AVEC)に一本化し利便性アップ 	<ul style="list-style-type: none"> 雇用促進インセンティブ (人件費16% (BC28%)税金還付) 				

3. ロケ誘致に関する諸外国との比較（参考）

※非公開

4. 海外制作会社による国内ロケ誘致等支援（補助金制度）

対象となるコンテンツ

日本を撮影ロケーションに含んだ海外製作作品で、海外制作スタッフが参加している大型映像作品。（実写映画、配信ドラマ等）

補助金額の上限

1 案件につき 10 億円（補助金額：補助対象経費 × 補助率）

補助金額の補助率

適用される補助率は、「1/2」

JLOX
補助金

$a \times 1/2$

a 補助対象経費

事業
全体

自己負担

補助対象外経費

応募要件

以下の①又は②の要件を満たすことに加え、③～⑥の要件を満たすもの

- ①以下の（ア）又は（イ）に該当する映像作品
（ア）日本国内における直接製作費 5 億円以上の作品
（イ）総製作費 10 億円以上かつ日本国内における直接製作費 2 億円以上の作品
 - ②公開、配信、放映または放送等を行う予定としている国が 10 カ国以上であり、かつ日本国内における直接製作費 2 億円以上の作品
 - ③国内映像産業への裨益があること（現地雇用による人材育成、国内スタジオの活用等）
 - ④日本のシーンが確約されていること
 - ⑤製作者が作品のプロモーションを通じ、ロケ地となった地域のプロモーションに協力可能であること
 - ⑥映像作品における日本のシーンを通じた魅力について、グローバル展開に向けた工夫を有すること
- ただし、①および②の要件を満たさない場合でも、③～⑥において日本経済・国内映像産業に大きく裨益する作品（※）については審査の対象となることがあります。
（※）外部審査委員会の判断に委ねられます

補助対象作品（第 1 号案件）

作品名	内容
『Ek Din(One Day)』 （インド映画）	<ul style="list-style-type: none">・令和 6 年 1 月より札幌市、小樽市などで撮影予定・2025 年日本公開予定・アーミル・カーン・プロダクション製作・インド人俳優サイ・パラヴィとジュネイド・カーン主演

5. ロケ誘致・ロケ撮影に関する課題・要望

(注) 事務局において、事前に制作会社、FC、有識者等から聴き取りを行い、取りまとめたもの。

許認可手続き

- ・ 許認可手続きの簡素化（迅速化）
- ・ 許認可手続きの一元化
- ・ 撮影許可の緩和及び特別の措置（港湾（コンテナターミナル）、国立公園、空港、歌舞伎町、渋谷スクランブル交差点等）

【制作会社、FC等の声】

- ・ 東京都内の場合、歩道において、移動撮影に使うルールやカメラの三脚が使えないルールとなっている。
- ・ 東京23区内では、自動車を使ったロケに係る道路使用許可が下りるケースが極めて少ないといった問題もある。これは、カーアクションだけでなく、カメラカーや車の牽引の場合も含む。
- ・ 海外のスタッフは、歌舞伎町や銀座、渋谷のスクランブル交差点など、日本ならではのロケーションを撮影したいと考えている。海外の同様の場所（ルーブル美術館やN Yのタイムズスクエア等）では、警察が道路を封鎖してくれたり、占有の許可をしてくれたり、警察のサポートがあり、そういったサポートの上で大規模の撮影が可能となっている。
- ・ 国立公園で撮影をする際に、撮影スタッフの人数に制限を課されることがある。特に、海外の大型作品の撮影では、撮影隊の規模も大きくなり、制限内に収まらないこともあることから、こういった制限が緩和されると有難い。
- ・ 国立公園の使用に関して、ルールを使用すると公園をひどく傷つけると思われており、ルールの使用許可が下りないことがある。

「ロケ撮影の円滑な実施のためのガイドライン」

(追加すべきと考えられる記載事項)

- ・ 日本と海外の文化や制度の違いの相互理解
- ・ 「好事例集」のアップデート
- ・ 「製作者等が留意すべき事項」のアップデート（許認可等申請時期についての制作会社の理解不足、制作会社のルール遵守の徹底、長期滞在場所・機材置き場の確保、スタッフのマナー、FCの存在意義・役割の周知等）
- ・ 許認可手続き（ドローン申請等）のアップデート
- ・ 補助金制度に係る記載

(その他)

- ・ 要約版の作成
- ・ パンフレットの作成
- ・ 英語版ガイドラインの作成

構造改革

- ・ 制作会社、プロデューサー、FCの体制強化（留学、研修、マニュアルの作成等）
- ・ 制作スタッフの地位向上
- ・ コンプライアンス・労働環境の改善
- ・ 海外作品を担当する日本人スタッフのデータベース化
- ・ 許認可手続きスタッフの専門化
- ・ 国際標準化（ペーパーワーク、役者のスケジュールの抑え方）
- ・ 賃上げ

広報

- ・ ロケ誘致の重要性・意義のPR、地域住民の理解の醸成
- ・ 地方プロモーションの活性化（上映会、レッドカーペットの実施等）
- ・ 日本と海外の文化や制度の違いの相互理解に係る取組
- ・ 「ロケ撮影の円滑な実施のためのガイドライン」の周知
- ・ 日本のロケーション（JLDB）の周知
- ・ IMDB（作品・スタッフに係る情報掲載）の活用
- ・ FCの認知度向上に向けた取組

その他

- ・ 補助金制度の課題の見直し（申請期間、税制措置）
- ・ 小規模作品に対するインセンティブ制度の創設
- ・ 海外からの撮影に係る問合せ窓口の設置
- ・ 入国等に係る手続きの検証
- ・ 誘致活動の強化（地域FCの連携、見本市、デジタルPR）
- ・ FCスタッフの専門職化
- ・ 撮影用保険の整備
- ・ ロケツーリズム（オーバーツーリズム対策を含む）への取組
- ・ スタジオ（バーチャル・VFX含む）の整備